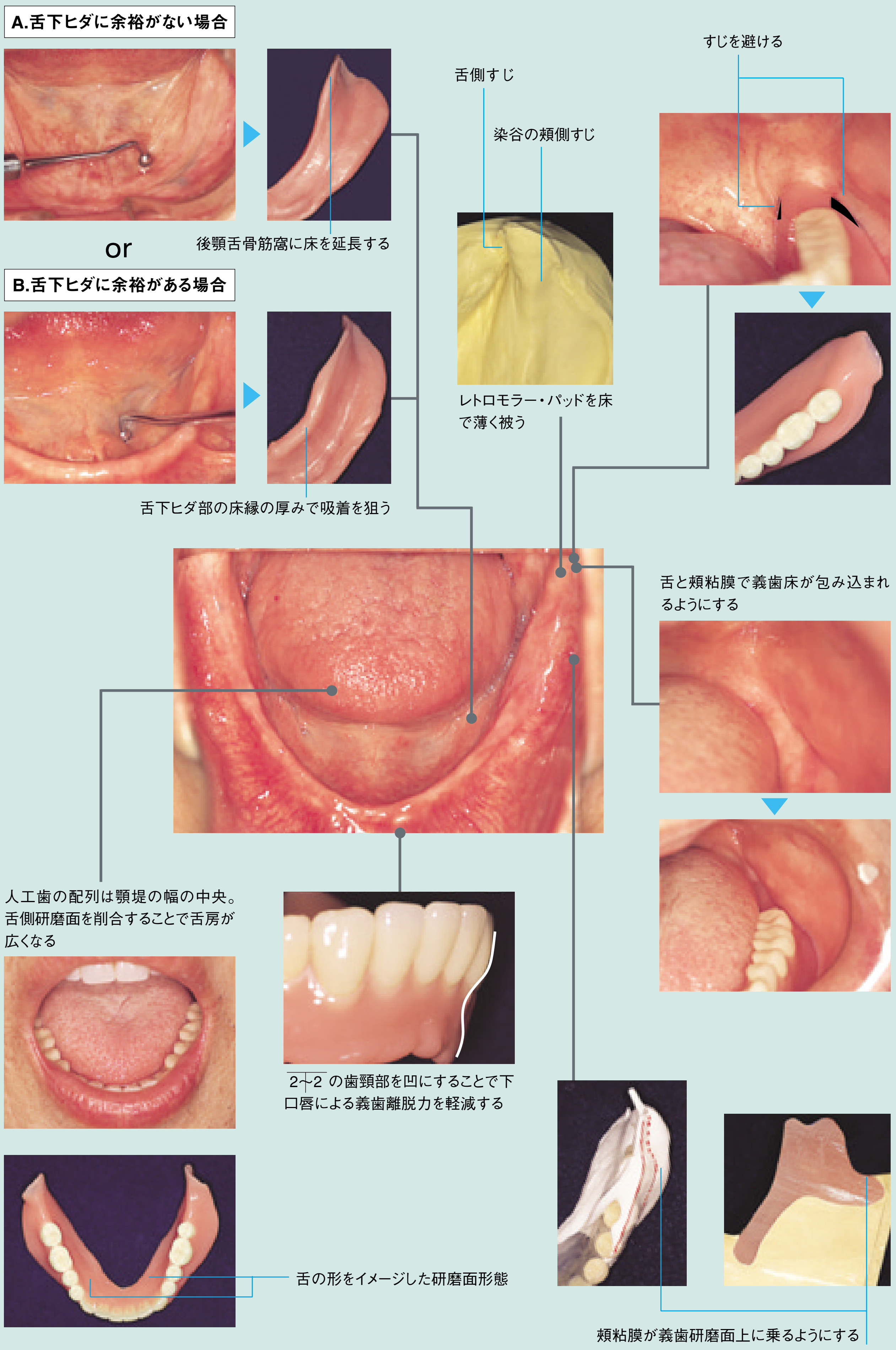
下顎総義歯吸着のポイント

東京都調布市開業
阿部二郎



CASE PRESENTATION

下顎総義歯吸着のテクニックの臨床（前編）

東京都調布市開業
阿部二郎

はじめに

印象や咬合をはじめとする義歯の製作技術は若手医師にとって難しい職人技といわれてきました。だから、その技術を少しでも獲得しようと多くの講演会が企画され、今でも多くの先生方が受講しています。ところが、ここ数年、歯周治療技術が向上するばかりでなく、インプラントや移植・再植術もめざましい進歩を遂げています。そして、このような歯牙の長期保存技術の発展とは裏腹に、無歯顎者の高齢化が目立つようになりました。つまり、初めて無歯顎となるその顎堤は貧弱で、総義歯を作る歯科医師にとってはよりやっかいな問題を抱えることになったのです。

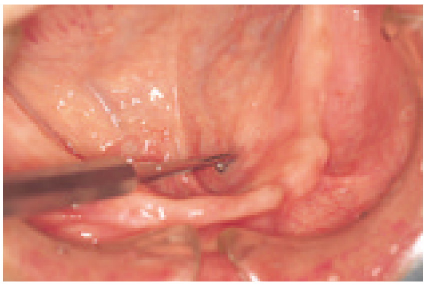
このような時代になると今までと同じように職人の技を学ぶのでは時間や労力がかかり過ぎます。よりスピーディに確実な技術を獲得せねばなりません。そこで今回、できるだけ誰にでも同じように簡単にできる下顎総義歯製作技術を公開することにしました。今回の内容には以下の2つの大きな問題解決を含んでいます。1つ目は患者個々の口腔内で適した大きさの義歯とは一体どのくらいなのかを提示し、その目指す大きさに印象採得できる技術について、そして、2つ目は下顎総義歯の装着のテクニックです。すべての手順を本号No.101（前編）、および次号No.102（後編）に実践に沿って紹介していきます。

下顎総義歯 吸着の実践

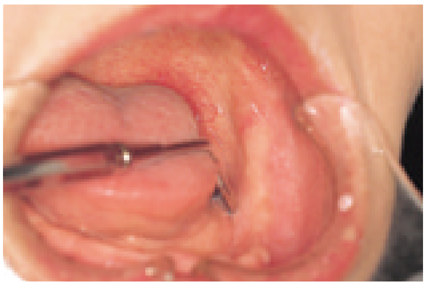
1. 軟組織の診断

1-1 上顎の顎堤です。上顎結節の状態やフラビーガムの有無を診査します。

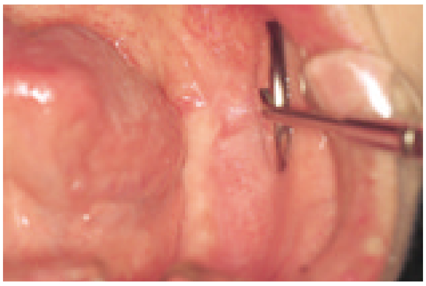
1-2 下顎の顎堤です。歯槽堤が発達した下顎総義歯の吸着に条件のよい顎堤です。



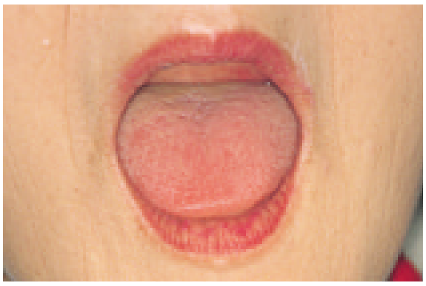
1-3 舌下ヒダの診査を行います。舌下ヒダが豊富で弾力があれば下顎総義歯の吸着力は増加します。



1-4 後顎舌骨筋窩とレトロモラーパッドの診査を行います。発達したレトロモラーパッドです。後顎舌骨筋窩にも余裕があります。



1-5 レトロモラーパッドの付け根にある頬側のスジを確認します。ミラーを押し当て横に引くと見えますが、顎堤形態が悪くなるほど見えにくくなる傾向にあります。



1-6 開口時の舌位を診査します。舌が前方にあるので吸着の条件はかなり良いケースです。反対に舌が後方へ丸まって先端が細くなる場合は吸着が難しくなります。

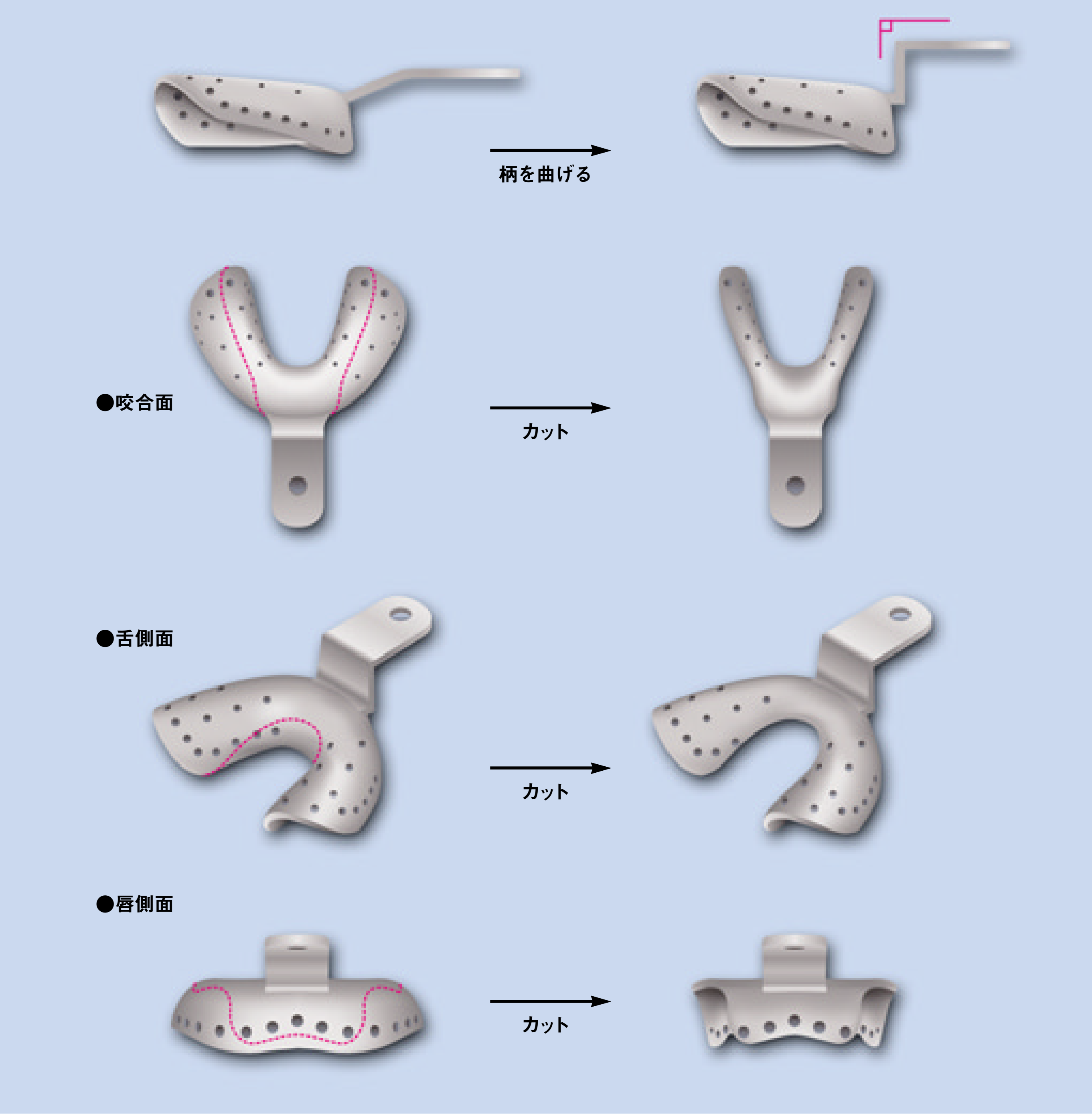
2. 枠なしトレーの作り方

2・1 下顎は有歯顎用のトレーを改造して枠なしトレーを作ります。各自使い古しのトレーを改造してみてください。改造前と改造後です。

2・2 万力でトレーの柄を曲げます。

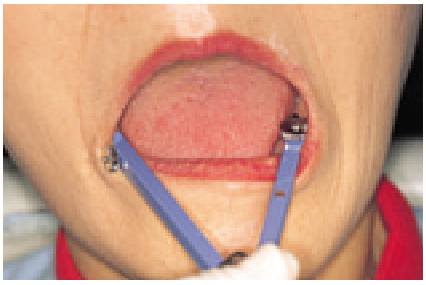
2・3 金切りばさみでトレーをカットします。

枠なしトレーの設計図



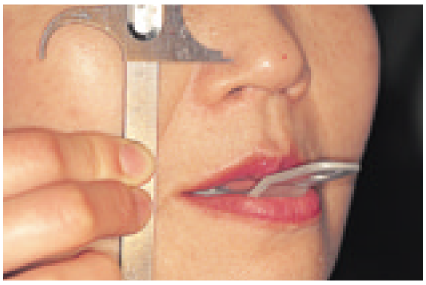
3. スナップ閉口印象

枠なしトレーを使ったアルジネート印象の特長は、1.誰にでも同じ大きさに印象が採れること、2.各個トレーの長さを簡単に決められることです。ここでは各個トレーの外形と長さを決めることが重要で、床縁の厚みは、この後の精密印象で作り上げます。



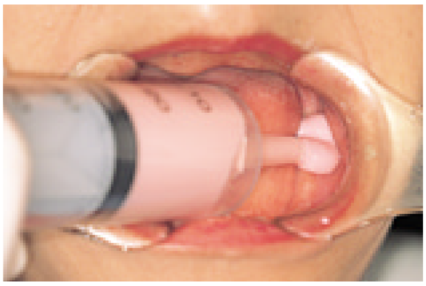
3:1 トレーの後縁の幅をコンパスで計ります。

3:2 枠なしトレーを患者の口腔内のコンパス幅に合わせて曲げ伸ばしします。

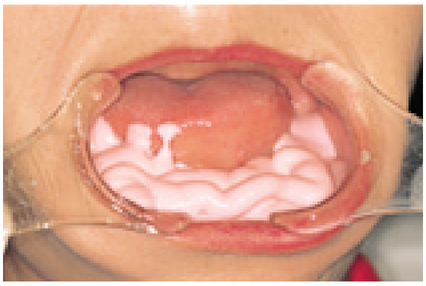


3:3 口腔内でトレーの試適を行います。舌をトレーの上に軽く乗せ、ゆっくり閉口します。

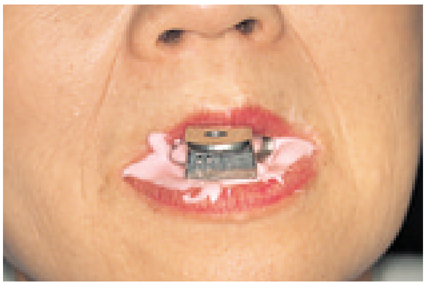
3:4 アルジネート印象材「アローマファインミキサータイプ」および「らくねる」を使用します。



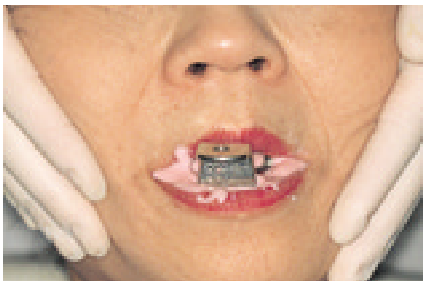
3:5 レトロモラーパッドの位置を確認し、「アローマファインミキサータイプ」をシリンジで注入します。(テルモシリンジ：カテーテルチップ型50mL、ss50Cz)



3:6 レトロモラーパッド⇒歯肉境移行部⇒レトロモラーパッド⇒舌側部の順で注入し、さらに顎堤もアルジネート印象材で海のように埋め尽くすのがコツです。



3:7 枠なしトレーにもアルジネート印象材を軽く盛ります。舌をトレーの上に軽く乗せ、ゆっくりと閉口し、柄をくわえ硬化を待ちます。自然な口腔内のスペースを印象するのでトレーを無理に押し込まないのがコツです。枠があると必要以上に印象が大きくとれてしまいます。

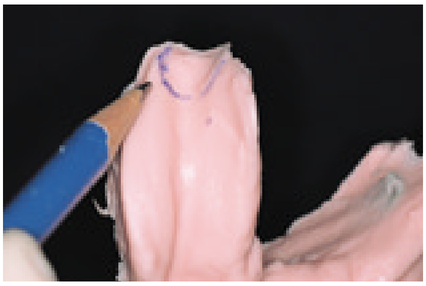


3:8 頬側臼歯部に印象材が溜まりやすいので、術者が後方に立ち頬を撫で上げます。

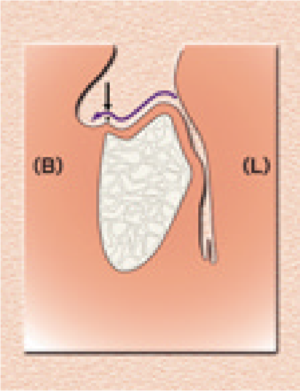
3:9 口腔外へ取り出した下顎スナップ印象です。枠がないので誰にでも同じように印象が採れます。

4. 各個トレーの基礎床を作る

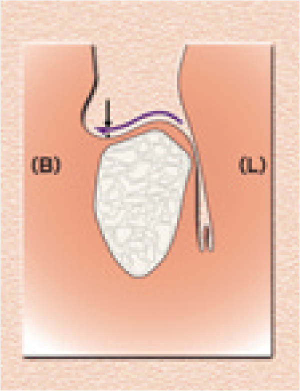
採れたスナップ印象に直接粘膜ペンシルあるいは皮膚ペンシルで各個トレーの外形線を上描きします。模型になってから各個トレーの外形ラインを記入しようとすると、模型を読むという能力が必要となり、かえって難しくなります。(ペンシル:BEROL HYDRO MARKER:USAなど)



4-1 まず、レトロモラーパッドを形通りに描きます。

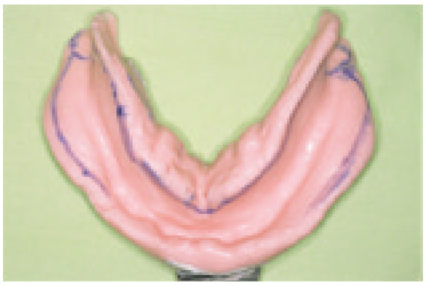


4-2 まず頬側の設計線です。顎堤形態が良い場合には顎堤頂から頬側に向かい一度下がって登りきったところです。



4-3 顎堤形態が悪い場合には顎堤頂から頬側に下り水平に移行するところです。

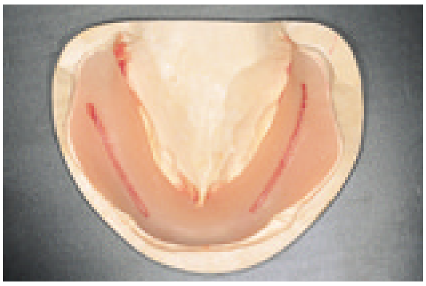
4-4 続いて舌側です。舌側は印象内縁部の最下点を結びます。印象材が横に拡がり出す前のところです。ペンを立てるようにして描くのがコツです。



4-5 各個トレー外形線が描けました。

4-6 石膏模型にうっすらとペンシルの跡が残ります。もう一度しっかり上描きします。

4-7 分離剤ワセリンを塗り、オストロンⅡを使い各個トレーを作ります。

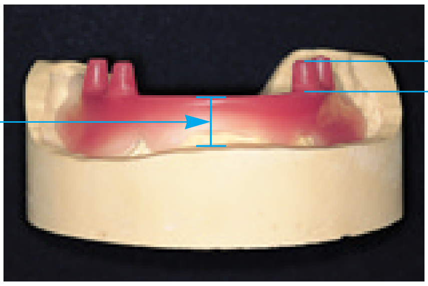


4-8 レジン重合収縮時にレジンの辺縁の捲れ上がりを防止する目的で左右歯槽頂部にエバンスでスリットを入れます。

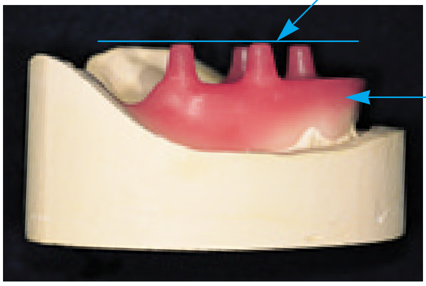
4-9 基礎床のベースのできあがりです。これに蝋堤を付け、下顎閉口印象用・各個トレーの完成です。

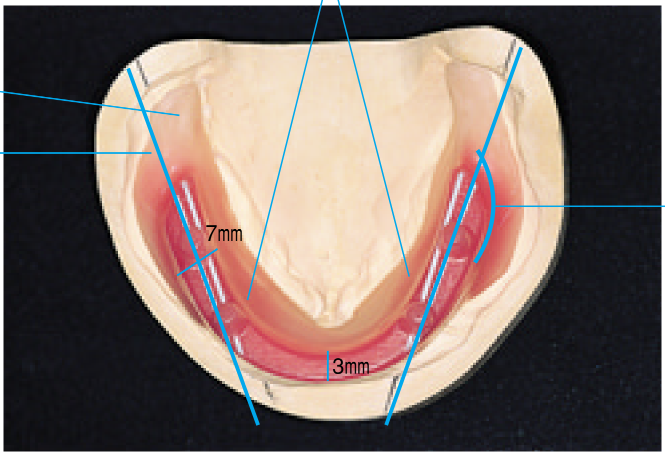
5. 閉口印象のための蝋堤付き各個トレー

　この各個トレーには下顎総義歯の吸着に必要な舌や頬粘膜を利用するための工夫が施されています。従来の咬合採得用の蝋堤と異なる点にご注意ください。また、上下顎蝋堤の平らなワックス面どうしをぴったりと合わせる技術は大変難しいので、高径を予め低めに設定した蝋堤の46部の4ヵ所にワックスの突起をのせます。そしてこの突起の高さは、従来の蝋堤高径よりもワックス軟化分2.0mm高めに作ってあるので咬合採得をより短時間に正確に行えます。



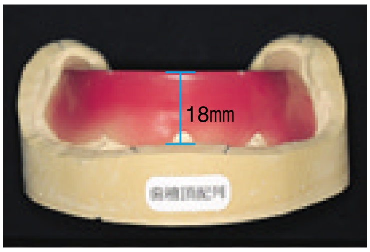
レトロモラーパッドより2mm高いワックス突起を 64|46 部に付与します。

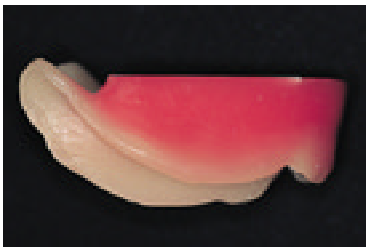


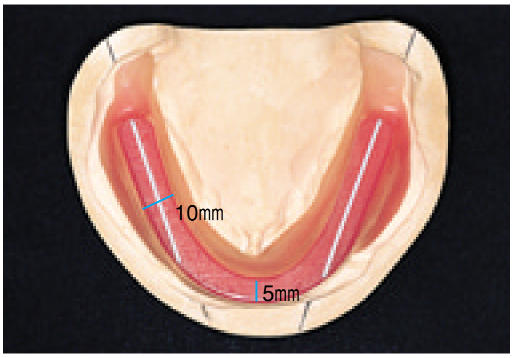


蝋堤の中央は顎堤の幅の中央. 歯槽頂（白線）よりもやや頬側の位置になる.

［従来型の咬合採得用蝋堤］







蝋堤の中央は歯槽頂